

# 1 社会科の改訂のポイント

- 社会科において育成を目指す資質・能力を「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に沿って整理している。
- 各学年の内容を、中学校で学ぶ内容との関連を考慮して、「地理的環境と人々の生活」、「歴史と人々の生活」、「現代社会の仕組みや働きと人々の生活」の3つに区分し、整理している。
- 第3学年と第4学年の目標と内容を分けて示し、地図帳の使用を第3学年からとし、グローバル化などへの対応を図っている。
- 課題を追究したり解決したりする活動を位置付けた学習過程を工夫し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するよう授業改善を図ることを示している。

## 2 目標及び社会的な見方・考え方

### (1) 教科の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに、様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。

### (2) 育成を目指す資質・能力の三つの柱

知識及び技能	「知識」	社会生活について総合的な理解を図るための知識 ◇主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関わる知識 ◇主として社会的事象の特色や意味、理論等を含めた、汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識
	「技能」	社会的事象等について調べまとめる技能 ◇問題解決に必要な社会的事象に関する情報を集める技能 ◇集めた情報を「社会的事象の見方・考え方」に沿って読み取る技能 ◇読み取った情報を問題解決に沿ってまとめる技能 ※技能は、繰り返し使って習熟を目指す
思考力、判断力、表現力等	「思考力」	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力
	「判断力」	社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて、学習したことを基に、社会への関わり方を選択・判断する力
	「表現力」	考えたことや選択・判断したことを説明する力 考えたことや選択・判断したことを基に議論する力
学びに向かう力、人間性等		よりよい社会を考え、主体的に問題解決しようとする態度 多角的な思考や理解を通して涵養される自覚や愛情等

### (3) 社会的な見方・考え方

小学校社会科の各学年の目標においては、「社会的事象の見方・考え方」と表記。

「社会的な見方・考え方」は、社会的事象の特色や相互の関連、意味を考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したりする際の「視点や方法（考え方）」のこと。

社会的事象を	
◇位置や空間的な広がり	
◇時期や時間の経過	<b>視点</b>
◇事象や人々の相互関係に着目して捉え	
◆比較・分類したり、	
◆総合したり、	<b>方法(考え方)</b>
◆地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。	

## 3 学習指導の改善・充実

### (1) 問題解決的な学習

三つの柱に沿った資質・能力を育成するために、社会科においては、学習の問題を追究・解決する活動、すなわち問題解決的な学習過程を充実させることが大切になる。

問題解決的な学習とは、単元などにおける学習問題を設定し、その問題の解決に向けて諸資料や調査活動などで調べ、社会的事象の特色や相互の関連や意味を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりする学習である。主な学習過程は、次のとおりである。

学習過程		具体例
課題把握	動機付け	学習課題（学習問題）を設定する。
	方向付け	予想や仮説を立てる。
課題追究	情報収集	予想や仮説の検証に向けて調べる。
	考察・構想	社会的事象等の意味、特色や相互の関連を多角的に考察（思考）する。 社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基にして、社会への関わり方を構想（選択・判断）する。
課題解決	まとめ	考察したことや構想したことをまとめる。
新たな課題	振り返り	学習を振り返って考察する。新たな課題を見いだしたり、追究したりする。

### (2) 主体的・対話的で深い学び

「主体的・対話的で深い学び」は、必ずしも1単位時間の中ですべてが実現されるものはない。また、「形式的に対話を取り入れる」ことや「特定の指導の型」を指しているのでもない。社会科において「主体的・対話的で深い学び」を実現するには、次の点に留意して授業改善を進めることが重要である。

主体的な学び	○社会的事象から学習問題を見だし、その解決に向けて、予想したり学習計画を立てたりするなどの見通しをもつ場面を設定する。 ○自分の調べ方や学習成果を確認したり、新たな問い（課題）を見いだしたりするなどの振り返りの場面を設定する。
対話的な学び	○様々な場面で話し合いや討論などの活動や実社会で働く人々から話を聞く活動を充実させ、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えることができるようにする。
深い学び	○「社会的事象の見方・考え方」を働かせ、課題を追究したり、解決したりする活動を重視する。

## 4 教科の内容

学年	内容	区分	学年	内容	区分
3	身近な地域や市区町村の様子	①	5	我が国の国土の様子と国民生活	①
	地域に見られる生産や販売の仕事	③		我が国の農業や水産業における食料生産	③
	地域の安全を守る働き	③		我が国の工業生産	③
	市の様子の移り変わり	②		我が国の産業と情報との関わり	③
4	都道府県の様子	①	5	我が国の国土の自然環境と国民生活との関連	① ③
	人々の健康や生活環境を支える事業	③		6	我が国の政治の働き
	自然災害から人々を守る活動	③	我が国の歴史上の主な事象		②
	県内の伝統や文化、先人の働き	②	グローバル化する世界と日本の役割		③
	県内の特色ある地域の様子	①			

※区分の①は地理的環境と人々の生活を、②は歴史と人々の生活を、③は現代社会の仕組みや働きと人々の生活を、それぞれ示している。

## 5 カリキュラム・マネジメントの視点

指導計画の作成に当たっては、内容の選択や授業時数の適切な配分により効果的な年間指導を立てる必要がある。

- 第3学年の「身近な地域や市区町村の様子」において、身近な地域を見学・調査する際に、目的や着目する視点を明確にして効果的に行い、市全体の地理的環境の概要を理解する際の基礎として位置付けるなど工夫する。
- 第3学年の「地域に見られる生産や販売の仕事」において「生産の仕事」の事例として野菜の生産を取り上げて学習した場合には、第5学年の「我が国の農業や水産業における食料生産」における「食料生産」の事例として果物、畜産物、水産物などの生産の中から選択することが考えられる。
- 第3学年の「地域の安全を守る働き」において、「緊急時に対処する体制をとっていること」については消防署を中心とした学習に、「防止に努めていること」については警察署を中心とした学習に、それぞれ重点を置くなどして工夫する。
- 第4学年の「県内の伝統や文化、先人の働き」において「年中行事」の事例として地域の祭りを取り上げて学習した場合には、「県内の特色ある地域の様子」における「県内の特色ある地域」の事例として自然環境を保護・活用している地域を取り上げることが考えられる。

## 6 障害のある児童への配慮について

- 地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したりして、情報を精選し、視点を明確にするなどの配慮をする。
- 社会的事象の意味を理解しやすくするため、社会の営みと身近な生活がつながっていることを実感できるように、特別活動などとの関連付けなどを通して、具体的な体験や作業などを取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるように配慮をする。
- 情報収集や考察、まとめの場面において、考える際の視点が定まらない場合には、見本を示したワークシートなどを作成する。